

Oracle® Solaris 11 の管理の紹介

2014 年 7 月

この記事では、Oracle Solaris システムの設定と管理に必要な重要なタスクの概要について説明します。この記事の各セクションでは、これらのタスクに関する詳細情報の参照先を示します。次のようなタスクを取り上げます。

- [2 ページの「ユーザーアカウントおよびグループの作成と管理」](#)
- [2 ページの「システムサービスの管理」](#)
- [3 ページの「システムの情報、プロセス、タスク、およびパフォーマンスの表示と制御」](#)
- [3 ページの「システムコンソール、ローカル接続の端末デバイス、および電源サービスの管理」](#)
- [4 ページの「プリンタの設定と管理」](#)
- [4 ページの「コアファイルとクラッシュダンプの情報を使用したシステムの管理とトラブルシューティング」](#)

注記 - この記事は、Oracle Solaris オペレーティングシステムがすでにインストールされ、システムがネットワークに接続されていることを前提としています。これらのタスクをまだ実行していない場合は、次の参照先を参照してください。

- [『Oracle Solaris 11.2 システムのインストール』](#)
- [『Oracle Solaris 11.2 でのネットワーク配備の計画』](#)

ユーザーアカウントおよびグループの作成と管理

Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールし、インストールしたシステムをネットワークに接続すると、システム上のいくつかの重要な機能を設定する準備が完了します。最初に、システム上のユーザーアカウントとユーザーグループを設定できます。

注記 - Oracle Solaris のユーザー管理に慣れていない場合は、[『Oracle Solaris 11.2 のユーザーアカウントとユーザー環境の管理』](#)の「[ユーザーアカウントとグループとは](#)」を参照してください。

最初に、必要なユーザーアカウントを作成し、各ユーザーにセキュリティ属性を提供します。ユーザー初期設定ファイルを変更して、ユーザーの作業環境をカスタマイズできます。また、グループアカウントを作成して、グループのセキュリティ設定を制御することもできます。コマンド行ツールまたはユーザーマネージャー GUI を使用すると、これらのタスクを実行できます。

ユーザー管理の手順は、[『Oracle Solaris 11.2 のユーザーアカウントとユーザー環境の管理』](#)に記載されています。

システムサービスの管理

システム管理者にとって重要なもう 1 つのタスクは、Oracle Solaris のサービス管理機能 (SMF) を使用してアプリケーションとシステムサービスを管理することです。SMF を使用すると、システム上のアプリケーションまたはサービス間の関係を定義できます。SMF では、サービス上で呼び出すことができるアクションも定義されます。

注記 - SMF に慣れていない場合は、『Oracle Solaris 11.2 でのシステムサービスの管理』の第 1 章「サービス管理機能の概要」を参照してください。

SMF を使用すると、サービスのステータス、プロパティ値、依存関係などの情報を表示できます。サービスのプロパティ値を変更したり、カスタムプロパティを作成したりできます。カスタムサービスまたはカスタムサービスインスタンスを作成できます。システムサービスをトラブルシューティングすることもできます。

サービスの管理手順については、『Oracle Solaris 11.2 でのシステムサービスの管理』を参照してください。

システムの情報、プロセス、タスク、およびパフォーマンスの表示と制御

継続的なシステム管理タスクには、多くの場合、システムプロセスとシステムパフォーマンスのモニタリングと制御が含まれます。

Oracle Solaris オペレーティングシステムに用意されている標準の管理ツールを使用すると、ホスト名、メモリ、プロセッサタイプなどのシステム情報を表示できます。また、システムの日付と時間やホスト名などの情報を変更することもできます。プロセスのステータス、プロセス ID、プロセスの優先順位などのプロセス情報を表示できます。また、標準の管理ツールを使用して、システムプロセスの開始、停止、優先順位の変更、またはスケジューリングを行うこともできます。さらに、スワップの統計情報、ディスクの入出力、バッファのアクティビティ、ディスク容量情報などのシステムパフォーマンス情報をモニターできます。標準の管理ツールを使用して、個々のジョブや反復するジョブをスケジュールすることもできます。

これらの継続的タスクの実行については、『Oracle Solaris 11.2 でのシステム情報、プロセス、およびパフォーマンスの管理』を参照してください。

詳細なシステムパフォーマンス情報については、次の参照先を参照してください。

- システムパラメータの調整によるシステムパフォーマンスの向上 - 『Oracle Solaris 11.2 カーネルのチューンアップ・リファレンスマニュアル』の「Oracle Solaris システムのチューニング」
- Oracle Solaris ゾーンでの作業負荷の最適化 - 『Oracle Solaris 11.2 でのリソースの管理』の「リソース管理の設定のタスクマップ」
- DTrace を使用したシステムパフォーマンス問題の調査 - 『Oracle Solaris 11.2 Dynamic Tracing Guide』の「Getting Started」

さらに、国際的なシステム環境を管理する場合は、『Oracle Solaris 11.2 国際化対応言語環境の利用ガイド』を参照してください。

システムコンソール、ローカル接続の端末デバイス、および電源サービスの管理

継続的作業のもう 1 つの部分には、システムコンソールとシステムに接続された端末デバイスの管理が含まれます。システムの電源も管理する必要があります。Oracle Solaris オペレーティングシステムでは、SMF を使用してこれらのタスクを実行します。

これらのトピックについては、『Oracle Solaris 11.2 でのシステム情報、プロセス、およびパフォーマンスの管理』の第 5 章「システムコンソール、端末デバイス、および電源サービスの管理」を参照してください。

プリンタの設定と管理

システムプリンタの管理については、次の参照先を参照してください。

- 『Oracle Solaris 11.2 での印刷の構成と管理』の第 2 章「CUPS を使用したプリンタの設定 (タスク)」
- 『Oracle Solaris 11.2 での印刷の構成と管理』の「CUPS 印刷マネージャーを使用したプリンタの管理 (タスクマップ)」

コアファイルとクラッシュダンプの情報を使用したシステムの管理とトラブルシューティング

もう 1 つの重要なタスクは、システムの問題を処理するための準備と、発生したシステムの問題のトラブルシューティングに関与しています。システムクラッシュは、ハードウェアの故障、入出力の問題、またはソフトウェアのエラーによって発生します。システムがクラッシュすると、コンソールにエラーメッセージが表示され、ダンプデバイスに物理メモリのコピーが書き込まれます。その後、システムは自動的にリポートします。また、プロセスが異常終了すると、ユーザーが調査できるコアファイルが生成されます。クラッシュダンプファイルおよびコアファイルを作成するデフォルトのプロセスをカスタマイズできます。また、クラッシュダンプファイルとコアファイルを含む Oracle Solaris の各種ツールを使用して、特定の問題の原因を調べたり、システムの不具合を修正したりできます。

詳細は、『Oracle Solaris 11.2 でのシステム管理のトラブルシューティング』を参照してください。

トラブルシューティングには追加のツールが用意されています。Oracle Solaris オペレーティングシステムには、予測的な自己修復が可能なシステムやサービスを構築して配備するためのアーキテクチャーが含まれています。障害管理アーキテクチャー (FMA) は、エラーに関するデータを受け取り、問題を自動的に診断して、障害のあるコンポーネントをオフラインにしようとします。

障害管理については、『Oracle Solaris 11.2 での障害の管理』を参照してください。

その他のドキュメント

各 Oracle Solaris リリースのドキュメントライブラリは、システム管理のあらゆる側面を扱っています。この記事で説明している重要な管理タスクに加えて、各リリースのドキュメントセットでは次を扱っています。

- ネットワークの管理
- システムのデータとストレージの管理
- システムのセキュリティ保護
- 仮想環境の作成と使用

これらのトピック領域については、ドキュメントライブラリを確認してください。

Copyright © 2014, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ, AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。